

Vol
196

まとまったお金をどう活かす？ 改めて考えたい「一括投資」と「積立投資」

もうすぐボーナスの季節。投資に活用しようかな？と考えている方もいるかもしれません。その際、一気に投資する「一括投資」か、コツコツ進める「積立投資」か悩む方も多いようです。今回はそれぞれの特徴や、それぞれにあった投資信託の考え方などを一緒に見ていきましょう。



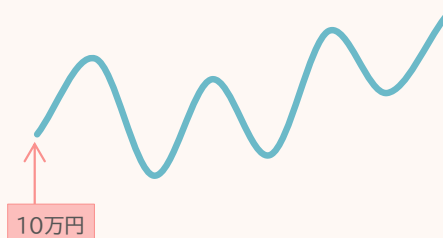
一括投資と積立投資の特徴

一括投資は、まとまった金額を一度に投資する方法です。早いタイミングから多くの資金を資産運用に充てることができ、長期で大きなリターンを得られる可能性もあります。ただし、投資タイミングによっては投資直後に評価額が大きく下がる可能性もあります。

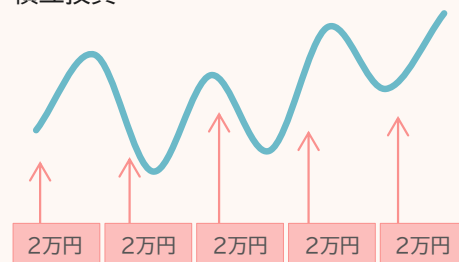
一方、積立投資は「毎月5万円ずつ」のように、定期的に一定額を投資する方法です。積立投資も市場の影響は受けますが、投資タイミングを分散することで、価格が高いときは口数を少なく、安いときには口数を多く買えるためリスク分散につながります。当初の資金が乏しくても続けていけば投資元本も次第に増えていくので、長期的な資産形成に向いているとされています。

■一括投資と積立投資のイメージ

一括投資



積立投資



普段から積立投資をしているという方も多いと思いますが、それに加えて「ボーナスでは一括投資」、「ボーナス分を積立額に上乘せ」という視点で年間の投資計画を考えてみるのも良さそうですね。

一括投資と積立投資、投資信託はどう選ぶ？

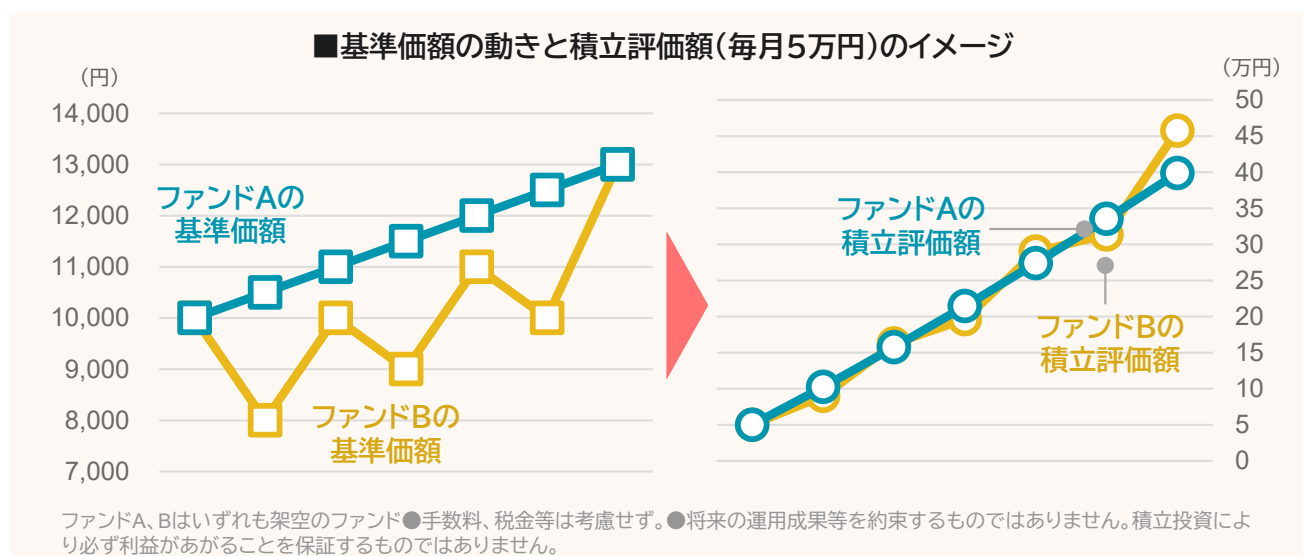
将来の値動きを正確に予測することはできないため、「この投資信託は一括向き」「これは積立向き」と断定することはできません。そのため、ここではあくまで考え方の一例として、それぞれにおける投資信託選びの視点を紹介します。

一括投資の視点から

投資後の大きな値下がり不安な方には、バランスファンドなど値動きが比較的抑えられた投資信託が合うかもしれません。一方、相場観に自信があり、リターンの最大化を求める方には、株式ファンドなど値動きの大きい投資信託が選択肢となります。

積立投資の視点から

一括投資に付きまとう高値掴みのリスクを低減できることから、積立投資は、どのような投資信託にも合わせやすい買い方だと言えます。中でも「株式ファンドに興味はあるけど、一括投資は怖い」と感じる方には、積立投資が良さそうです。



左上図は、値動きが異なる一方で、スタートとゴールは同じという2つのファンドを表しています。ゴールが同じなので、一括投資の場合はどちらを選んでも結果は同じになります。しかし、積立投資の場合は話が変わってきます。一見すると良さそうなファンドAよりも、値動きの大きなファンドBは、安い時に口数を多く買える効果で最終的な積立評価額は大きくなるのです(右上図)。

投資対象となる資産によって、通常想定されるリスクの大きさ(値動きの幅)は変わってきます。その投資信託の投資先の資産をしっかりと確認したうえで、期待するリターンや受け入れられるリスクの大きさを踏まえて投資の仕方を考えてみるといいでしょう。

「積立投資」と“下落”の関係は？

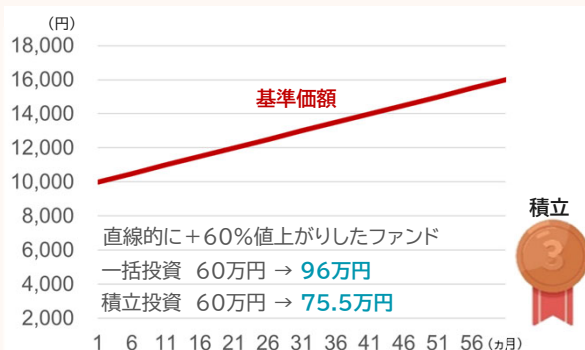
積立投資について、さらに詳しく見てみましょう。以下のグラフは、いくつかの異なる値動きをしたファンドを比較したものです。グラフ①、②、③は「+60%の成長」を遂げ、④は大きく値下がりしてから戻っただけ。ちなみに、一括投資の場合、投資結果は④は±0万円ですが、①、②、③は+36万円(元本60万円が60%上昇)になります。つまり、一括投資は、途中は無視して、スタートとゴールだけが結果を左右すると言えます。

それでは積立投資の場合は、結果はどうなったでしょう？

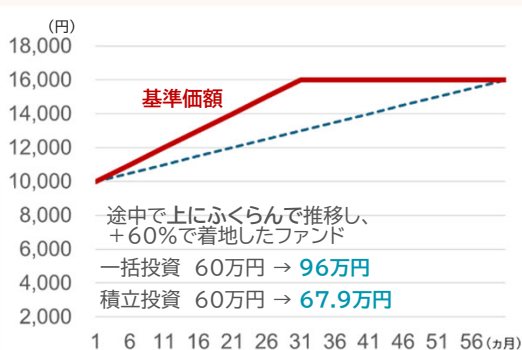
■基準価額の動きと一括投資／積立投資の評価額のイメージ

グラフ上のファンドはいずれも架空のファンド●一括投資／積立投資の結果は、架空の基準価額を使い、一括投資は投資開始時に60万円を、積立投資は毎月1万円投資した場合のもの●分析期間は60ヵ月(5年)、手数料、税金等は考慮せず

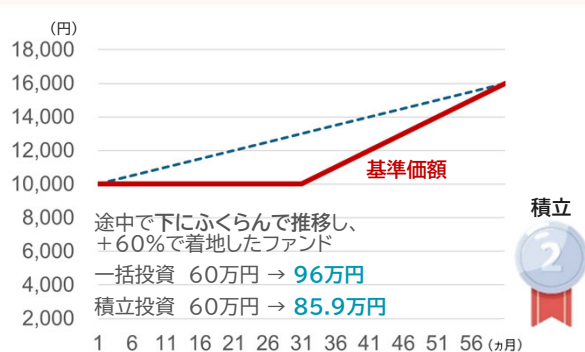
① (リスク・リターン効率の点から) 一般的には優秀なファンド



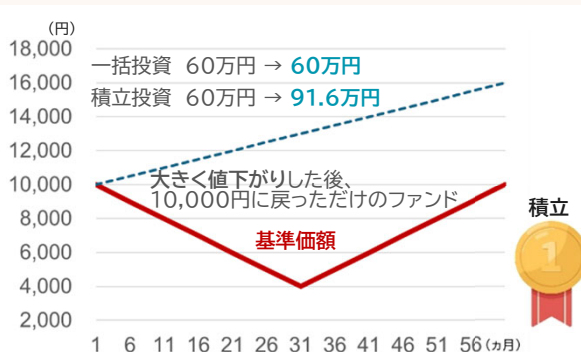
② (スタート時に調子が良いため) 多くの人が選びがちだが、 積立には良くない軌跡



③ (初期にはハラハラしたが) 積立結果は優秀なファンド



④ (大きく下がって元に戻っただけの) 残念な推移だが、積立には最も良い軌跡



●将来の運用成果等を約束するものではありません。一括投資／積立投資により必ず利益があがることを保証するものではありません。

1位になったのは、④の「大きく下がって元に戻っただけのファンド」でした。この4つの中で、「一番ハラハラする動きをしたファンド」だったものの、大きく値下がりのときに多くの口数を買えたことで、積立効果が大きく発揮されたのです。

実際には、このような動きをするファンドを最初から見抜くことはできません。しかし、積立投資のこうした特徴を理解して、下がったときにも積立をやめずに続けられるか、というのが積立投資との大事な付き合い方とも言えそうです。そのためには、投資対象の成長性を自分がしっかりと信じられることが大切です。もちろん、その視点での投資信託選びは、一括投資でも必要不可欠です。

終わりに

ここまで「一括と積立」での投資の考え方を見てきましたが、値動きはあくまでも結果論に過ぎません。ゴールに見据える数年後までの間の値動きを当てることは難しく、また予想すること自体もあまり意味はありません。

だからこそ投資スタイルを考える前に、まずはしっかりと「どれくらいのリターンを期待するのか」、「投資できる金額はどれくらいか」、「どれくらいの期間続けられるか」といったことを決めることが大切です。

その上で、選んだ投資信託に対して「自分は一括と積立のどちらなら続けやすいか？」という観点で投資スタイルを考えると、より納得感のある選択につながります。

せっかくのボーナス、ぜひ自分にあった形で有意義に活用していきましょう！



nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00

日興アセットマネジメント

取り扱い金融商品に関する留意事項

●商号等:岡三証券株式会社 岡三オンライン証券カンパニー/金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 53 号

第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業、投資助言・代理業

●加入協会:日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

●リスク:【株式等】株価変動による値下りの損失を被るリスクがあります。信用取引および株価指数証拠金取引(以下、「株価指数 CFD」)では、投資金額(保証金・証拠金)を上回る損失を被る場合があります。株価は、発行会社の業績、財務状況や金利情勢等様々な要因に影響され、損失を被る場合があります。投資信託、不動産投資証券、預託証券、受益証券発行信託の受益証券等は、裏付け資産の評価額(指数連動型の場合は日経平均株価・TOPIX 等)等、株価指数 CFD は対象指数等の変化に伴う価格変動のリスクがあります。外国市場については、為替変動や地域情勢等により損失を被る場合があります。上場投資信託(ETF)および指数連動証券(ETN)のうち、レバレッジ型・インバース型の価格の上昇率・下落率は、2 営業日以上の場合、同期間の原指数の上昇率・下落率に一定の倍率を乗じたものとは通常一致せず、それが長期にわたり継続することにより、期待した投資効果が得られないおそれがあります。上場新株予約権証券は、上場期間・権利行使期間が短期間の期限付きの有価証券であり、上場期間内に売却するか権利行使期間内に行使しなければその価値を失い、また、権利行使による株式の取得には所定の金額の払込みが必要です。株価指数 CFD では建玉を保有し続けることにより金利相当額・配当相当額の受け払いが発生します。【FX】外国為替証拠金取引(以下、「FX」)は預託した証拠金の額を超える取引ができるため、対象通貨の為替相場の変動により損益が大きく変動し、投資元本(証拠金)を上回る損失を被る場合があります。外貨間取引は、対象通貨の対円相場の変動により決済時の証拠金授受の額が増減する可能性があります。対象通貨の金利変動等によりスワップポイントの受取額が増減する可能性があります。ポジションを構成する金利水準が逆転した場合、スワップポイントの受取から支払に転じる可能性があります。為替相場の急変時等に取引を行うことができず不測の損害が発生する可能性があります。【各商品共通】システム、通信回線等の障害により発注、執行等ができず機会利益が失われる可能性があります。

●保証金・証拠金:【信用】最低委託保証金 30 万円が必要です。信用取引は委託保証金の額を上回る取引が可能であり、取引額の 30%以上の委託保証金が必要です。【株価指数 CFD】発注証拠金(必要証拠金)は、株価指数ごとに異なり、取引所により定められた証拠金基準額となります。Web サイトで最新のものをご確認ください。【FX】個人のお客様の発注証拠金(必要証拠金)は、取引所 FX では、取引所が定める証拠金基準額に選択レバレッジコースに応じた所要額を加えた額とし、店頭 FX では、取引金額(為替レート×取引数量)× 4%以上の額とします。一部レバレッジコースの選択ができない場合があります。法人のお客様の発注証拠金(必要証拠金)は、取引所 FX では、取引所が定める証拠金基準額とし、店頭 FX では、取引金額(為替レート×取引数量)×金融先物取引業協会が公表する数値とします。発注証拠金に対して、取引所 FX では、1 取引単位(1 万又は 10 万通貨)、店頭 FX では、1 取引単位(1,000 通貨)の取引が可能です。発注証拠金・取引単位は通貨ごとに異なります。Web サイトで最新のものをご確認ください。

●手数料等諸費用の概要(表示は全て税込・上限金額):【日本株】取引手数料には 1 注文の約定代金に応じたワンショットと 1 日の合計約定代金に応じた定額プランがあります。ワンショットの上限手数料は現物取引で 3,300 円、信用取引で 1,320 円。定額プランの手料は現物取引の場合、約定代金 200 万円以下で上限 1,430 円、以降約定代金 100 万円ごとに 550 円加算、また、信用取引の場合、約定代金 200 万円以下で上限 1,100 円、以降約定代金 100 万円ごとに 330 円加算します。手数料プランは変更可能です。信用取引手数料は月間売買実績により段階的減額があります。信用取引には金利、管理費、権利処理等手数料、品貸料、貸株料の諸費用が必要です。【上場新株予約権証券】日本株に準じます。【中国株】国内取引手数料は約定金額の 1.1%(最低手数料 5,500 円)。この他に香港印紙税、取引所手数料、取引所税、現地決済費用等の諸費用が必要です。売買にあたり円貨と外貨を交換する際には、外国為替市場の動向をふまえて当社が決定した為替レートによるものとします。【株価指数 CFD】取引手数料は、セルフコースは 1 枚につき 330 円、サポートコースは 1 枚につき 3,300 円です。【投資信託】換金時には株式投信の場合、基準価額に対して最大 0.50%の信託財産留保金をご負担いただく場合があります。公社債投信の場合、換金手数料として 1 万口につき最大 110 円をご負担いただきます。信託財産の純資産総額に対する信託報酬(最大 2.42%(年率))、その他の費用を間接的にご負担いただきます。また、運用成績により成功報酬をご負担いただく場合があります。詳細は目論見書でご確認ください。【FX】取引所 FX の取引手数料は、セルフコースはくりっく 365 が無料、くりっく 365 ラージが 1 枚につき 1,018 円、サポートコースはくりっく 365 が 1 枚につき 1,100 円、くりっく 365 ラージが 1 枚につき 11,000 円です。店頭 FX の取引手数料は無料です。スプレッドは、通貨ごとに異なり、為替相場によって変動します。Web サイトで最新のものをご確認ください。

●お取引の最終決定は、契約締結前交付書面、目論見書等および Web サイト上の説明事項をお読みいただき、ご自身の判断と責任で行ってください。